

2017年12月24日<待降節第4主日・クリスマス礼拝>飯川雅孝牧師

招詞：詩編100編

聖書：ルカによる福音書7章18-30節

説教 『神の国の到来』

皆さま、「メリークリスマス」。本日はクリスマスの意味、バプテスマのヨハネにイエスが語られた神の国の到来について、そのためにわたしたちがどのように心の準備をしたらよいか、そして最後に救われた者の歩む道の順でお話します。

1. クリスマスの時と救いを待つ人のいる現実

週報に触れましたように映画「戦場のメリークリスマス」の一番重要な内容には、ジャワ島の捕虜収容所で荒くれ男の軍曹のビートたけしが「今日はクリスマスだ。俺はサンタクロースだからお前たちにプレゼントをやる。命を助けてやる。」という場面がありました。驚くことに、最近では、実際の話として、内戦で22万人も死んだ南米のコロンビアで広告会社の社長の活動で武装ゲリラ兵にクリスマスカードやプレゼントを贈る活動があります。こうすることにより彼らの心が動かされ、1万8千人が「家に帰り」内戦の解決に多大な貢献をしているという事です。イエス・キリストが生れてから2千年、キリストの教えと反対なことをしている所でも、クリスマスとは「人に善いことをしてやる、良い贈り物をする」という偉大な意味を持つことに感動を覚えます。しかし、今、世界では戦争があり、幼い者から老人まで尊い命が奪われている現実があります。ともに痛みと責任を覚えたいと思います。

2. イエスの伝える神の国

聖書箇所は、クリスマスをもたらされた救い主イエスが神の国を開かれたことを伝える物語です。牢獄の中に繋がれていたバプテスマのヨハネの耳に、イエスが巷で奇跡をなさっていることが耳に入った。「わたしはその方の履物のひもを解く値打ちもない。聖霊と火によって洗礼を授ける。」とまで言っていた彼が、イエスが本当にメシアかどうか知りたい。古代からイスラエルでは人の言葉を公に信じるためには証人が必要とされました。そのため、一人ではなく、弟子二人を遣わせました。「あなたは人々が昔から待望していたメシア、救い主でありますか。」と直接訪ねさせた場面です。なぜか。ヨハネは人の命さえ気ままに左右する領主ヘロデにさえ、「あなたは神の教え背いたことをしている。」と直言するほど神に従って生きて来た。もう、間もなく処刑される運命にある。だから、「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」というイエスへの問いかけは、イエスの救いに命を賭けているのであります。「そのとき—とはイエスが奇跡を行っている現場に来た時です。—そのとき、イエスは病気や苦しみや悪霊に悩んでいる多くの人々をいやし、大勢の盲人を見えるようにしておられた。」それを見たヨハネの二人の弟子に、「行って、見聞きしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。」と、ご自身がまさしくヨハネに応える人物であることを証されます。当時ユダヤの人々は病気や障害の人を罪を犯したからだと蔑んでいました。ですから、このような人たちは世間の差別と罪意識の苦悩を抱えて生きていま

した。その一例を示せば、ヨハネは、弟子たちが「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」と言っています（ヨハネ9：1－2）。ですから、イエスのなされた奇跡「目の見えない人、足の不自由な人、重い皮膚病、耳の聞こえない人、死者、貧しい人」が救いに与ったことは心を締め付ける罪意識から自由にさせる。それは創造主である神の力が全身に電雷的に及び罪から解放させる言う人間存在に関わる根元的な意味を持ちます。魂に根本的な変化が起こって、全く新しい人にさせられる。その時、人はこの世のこととは思われない至福の時に置かれる。周りの人も驚き、神を賛美したことを聖書は伝えております。キリスト者は2000年の間、この事実を信じ、伝えて来ました。現代のわたしたちも、イエスが地上でなされたこの奇跡を一生の間のどこかの瞬間で、一番心の深い所で実際に起こったこととして受け止めています。敬虔なキリスト者の証から、「救われる前、自分の心は罪深さの暗闇に置かれ、苦しんでいた。それが、イエスに自分の罪を告白すると、世界が光り輝くような体験をした。」という告白を聞きます。ヨハネの二人の弟子はイエスの奇跡を目撃した証人となって帰ります。その後のヨハネ自身の思いは聖書には書いてありません。しかし、わたしはアメリカで1週間に渡ってキリストの生涯を放映されたテレビ番組をみました。製作者の解釈による、獄中のヨハネがこのイエスの言葉を聞いて、至福に浸った画面が印象的でした。そして、イエスは「わたしにつまづかない人は幸いである。」と付け加えます。この「つまづかない」ために、ルカが福音書で伝えている物語をはじめにもどって見てみましょう。

3. 救いに与るために心を整える

さて、メシアを待ち望んでいたイエスの国ユダヤでは長い歴史を通じてイスラエルの神を信じ、導かれてきました。そこには培われた信仰の土壌があります。アドヴェントの説教では二つの物語に触れました。マリアが神の子イエスを受胎する栄光に恵まれた時、神を称える賛歌を歌いました。その中にある「この賤しいはしためを神は顧み」と語る心には、祖先がエジプトの奴隷から救われ、砂漠のシナイで神に出会って「宝の民」とされたのは貧弱だから神が愛したという1000年以上の信仰の積み重ねがありました。大国に挟まれ、苦しんだ民のメシア待望の思いがあります。同時におごり高ぶる者はバプテスマのヨハネが「蝮の子らよ、悔い改めよ」と激しく攻めるように、自分自身を造り変えて神に心を向けるようにならなければその人にメシアは来ないのであります。

また、天に召されることを前にした敬虔な老人、シメオンとアンナがエルサレム神殿でメシアの誕生に接して救いに与ったことを話しました。神から聖霊が与えられ、普通の心では感じ取ることが出来ないイエスの誕生を救い主を見た告白することが出来ました。「御心に適って、心に平安を与えられる」者はこのような人たちです。それに続くルカの福音書の物語はわたしたちがつまづかないためにどのような人が救われたかを伝えています。

○キリストはわたしたちに「いと高き方の子」となれると言われます。それは一番狭き門「敵を愛し、あなたを憎む者に親切にきなさい。」をくぐることであります。イエスは目を上げわたしたちをご覧になり、わたしの言葉を聞いているあなたがた。(6：35、

20、27)と言います。わたしたちに力を与えるために関係を強められるのです。

○信仰には家の土台が大切です。イエスのもとに来て、その言葉を聞き入れて、それを行う人が築くことが出来ます。洪水が来ても地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いた家は川の水が押し寄せても揺り動かすことがないのであります。しかし、そうでない人の家はたちまち倒れ、その壊れ方がひどいのであります(6:46-49)

○ローマの百人隊長が今にも死にそうにな愛する部下を癒してもらったのは、イエスに治していただけると信じたから、イエスが心を動かされたのであります。(7:1, 9)

○やもめの一人息子が死んでしまった時、イエスはこの母親を見て、憐れに思われ、生き返された一点に、神の子としての愛を疑う者はいないでしょう。(7:13)

わたしたちには、ルカの伝えるこの救いの現実シメオンとアンナが生涯をかけてメシアの誕生を待っていた。その心がけがわたしたちに求められているのであります。

4. クリスマスの時、与えられたプレゼントの紹介。

キリストに救われた者は神の栄光を表す喜びの中に誘われます。最近、横浜の郊外では駅の前に「国境なき医師団」のパンフレットをもって、歩行者に呼びかけている人たちを見受けます。日本の東日本大震災、ネパールの大地震、シリアやアフガニスタンなど医療救援活動など、「人命に関わる大きな問題」が発生した時に医療活動を行う団体です。スタッフの方々の姿に感謝の思いを持ちます。また、毎年クリスマスには同仁美登里幼稚園や保育園でお誕生日に子どもたちが貯めた献金をNPO法人に寄付しております。例年、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)に合わせて30万円近くの献金を捧げております。今年はJapan HeartというNPOに支援したと聞きました。なぜかと聞いたところわたしたちの幼稚園に通う二人のお子さんの若いご両親が昨年度まで、カンボジアに家族で行っていた。自分の身を捧げて、現地の人に医療活動を無料奉仕でやっているとのこと。今は日本にいて、ご主人が月に1回カンボジアに支援に行く。活動の目的は『医療の届かないところに医療を届けること』。途上国での貧困や医師不足で医療を受けられない人々へ無償で医療支援をする。その方は幼稚園の園児たちに医療現場をスライドで見せ、4歳の子どもの首に大きな癌が出来て4ヶ月後に亡くなった映像などを紹介し、「いつかはお友だちがこのようなことを理解して欲しい。」と語っておりました。その後、もうすこし詳しく聞きました。

「東南アジアは大きな内戦などは無いものの、ミャンマーのロヒンギヤを始めとした少数民族の問題や、未だに世界2位と言われる埋設量をほこるカンボジアの地雷、台頭する新興国の急激な発展により加速的に拡大する格差で取り残された貧困層など弱者が社会から取り残されて苦しみを背負い続けているという闇を抱えています。微力ではございますが、臨床医療を通じて今苦しんでいる人々を、現地医療者の教育を通じて未来に待つ患者さん達のお手伝いをできれと考えています。」というものです。

わたしもこの方からいただいたこのクリスマスプレゼントに少しお返しをしたいと思っています。